

慶讃法会基本理念

「大悲に生きる人とおう 願いに生きる人となる」

2023年(令和5年)、本山佛光寺は、慶讃法会として宗祖親鸞聖人御誕生850年、立教開宗800年、聖徳太子1400回忌に併せ、第33代真覚門主伝灯奉告法要をお勤めします。

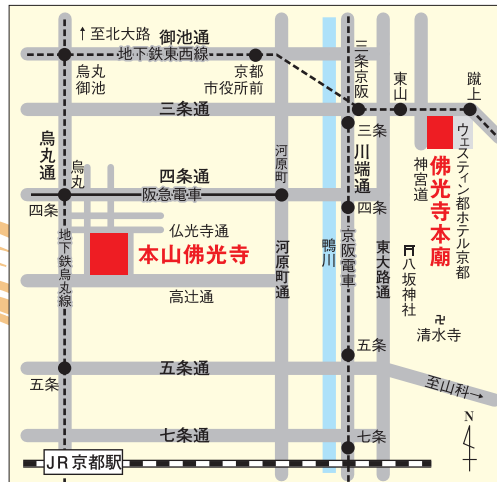
私たちの生活は、人工知能(AI)をはじめとするテクノロジーの発展により、想像もつかないほど便利になりました。

ところが、相変わらず心の平安は得られず、生きている意味を見失い、生かされている事実を忘れ、傷つけあっていることさえも気づかず、互いに孤立を深めています。

世の中が移り変わり、どのような境遇にあっても、阿弥陀さまの大悲のお心に生きられた親鸞さま。そのおすがたに流れるお心を、自らの願いとして生き抜かれたのが私たちの先人であり、今の私に届いている南無阿弥陀仏の歴史であります。

それは、思いを超えたはかり知れない命との出遇いであり、その命の願いに生きることが、苦悩の中を生きる力となるのです。

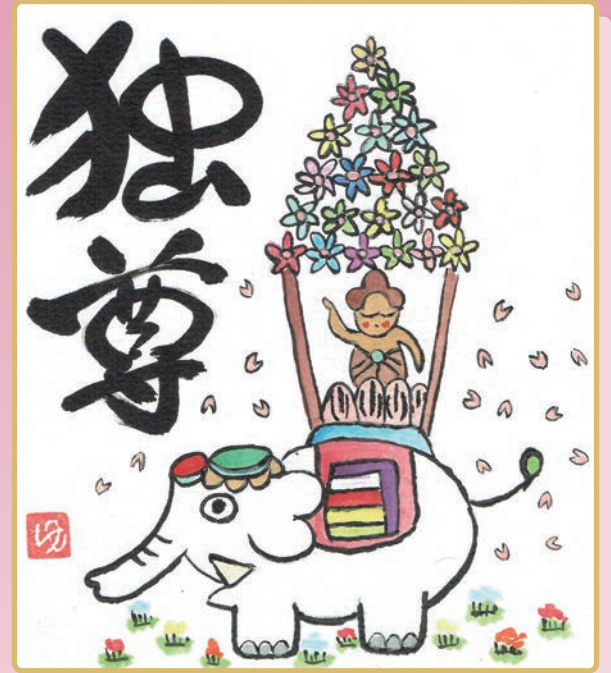
時と処を超えて、人から人へと伝わるともしびを、「大悲に生きる人とおう 願いに生きる人となる」と掲げ、このたびの法要をご縁に歩んでまいりましょう。



本山佛光寺

〒600-8084 京都市下京区新開町 397
Tel.075-341-3321 / Fax.075-341-3120

<http://www.bukkoji.or.jp/>



二〇二三年に親鸞聖人の生誕八五〇

年をお迎えします。

親鸞聖人は自分の生の意味、そして

いのちの行方を生涯かけて求め、お念

仏の道を開かれた方でした。

宗祖親鸞聖人御誕生八五〇年法要

本山佛光寺

誕生

きょうさんほうえ

なほし

一

「なんのために生まれて なにをして生きるのか 答えられないなんて そんなのはいやだー」。作家のやなせたかしさんが作詞した『アンパンマンのマーチ』の言葉です。この歌は私たちに、生まれてきたいのちをどう受け止めるのか、と問いかけています。

動物も人間も

先日、十五年間生活を共にした愛犬を看取りました。数ヶ月の寝たきりの介護の後、静かに息を引き取り、お骨となりました。ご近所の方が「今はペットも家族と同じ。人間と一緒によねえ」と気遣きづかってくださり、有難く思いました。ところが後になって「まてよ、私も犬も一緒なら、人として生まれた意味は何なのだろう？」とハツとしました。

人も動物もいのちの尊さは一緒です。では生き方は？食事や遊びを生きがいに暮らし、最後には介護され、お骨となって終わる……。けれど私たちのいのちの過程には、人間にしかできないことがあつたはずですよ。そう思ったとき、頭に浮かんだのはある方の言葉でした。「有難いお出遇あいをさせていただきましたと言えるものがあることが、人間の深みであり、幸せなのです」

父母や兄弟、先生。出遇いを喜び、別れに涙でできる、人生を支えるような深い出遇いを喜べることは、人にしかできないことだと。

いまお念仏に引き合わせれば、故人を偲しのぶ、仏さまを尊いと合掌する、それは人として生まれた喜びを受け止める大切な意味をもっているのですよ。動物にはしたくても

できないことがある、それを人間はできるのに、しない。私にとって愛犬の死は、そんなことを考えさせられた出来事となりました。

人に生まれた意味

尊い出遇いを喜べるのも人間ですが、生に苦悩するのも、人間です。無意味に生き、無意味に死ぬことに人は深く苦悩します。そのことを仏教は「その苦悩こそが教えを聞く縁なのです。人は、仏法を聞ける耳を持って生まれ、その苦悩を越える存在としてあるのですよ」と説いてくれます。

ある農家の老いた父と息子が、大事な牛を売ることになりました。牛を大切にしていた父が、別れに牛の側そばでお経を読まれたそうです。そのあと愛する牛に父は寂しげに言いました。「お前にはお経さまの言葉も届かんだろう。今度生まれてくるときは、仏法の聞ける人間に生まれてこいよ」

それを聞いた息子は、自分のことを言われているように感じたそうです。仏法に関心のない、聞く耳のないことを悲しまれていたのは私だった。大切なことを聞かずに人生が終わってしまうのではないか。それ以降、人に生まれてきたのは仏法に遇ったためだったと思えるようになったそうです。

人は尊いことと出遇うために誕生し、苦悩を越えていく存在として生まれてきた。親鸞しんらん聖人は人として生まれた喜びと深さを、お念仏の中に教えてくださっています。